

会 議 録

1 会議名

令和2年度第8回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【自主的審議事項】

・直江津まちづくり構想について（公開）

3 開催日時

令和2年9月15日（火）午後6時30分から午後8時13分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 多目的ホール

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 中澤武志（会長）、青山恭造（副会長）、田中美佳（副会長）、
磯田一裕、今川芳夫、河野健一、久保田幸正、坂井芳美、竹田禎広、
田中 実、田村雅春、林 昌宏、古澤悦雄、増田和昭、町屋隆之、
丸山岳人、水澤敏夫、水島正人
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小池係長、
霜越会計年度任用職員

8 発言の内容

【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【中澤会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：水澤委員、水島委員に依頼

【自主的審議事項】直江津まちづくり構想について、事務局へ説明を求める。

【小池係長】

- ・資料No.1 自主的審議事項「直江津まちづくり構想について」の審議の進め方についてに基づき説明

【中澤会長】

「直江津まちづくり構想について」を事務局の資料に基づき進める。まず、直江津区のいろいろな課題を抽出する作業として、今後町内会長との話の中でもいろいろな問題が出てくると思うが、とりあえず委員の皆様から思っていることをお聞きしたいと思っているので、考えをまとめておいていただきたい。

まずは、「今年度の審議スケジュール」について意見を求める。

【増田委員】

事務局からの地域活動支援事業の審査の振り返りをなるべく早めにとというのは、非常にいいと思う。それをどの辺に入れるのかを今後ご検討いただきたい。

もう1つは、町内会長との意見交換だが我々は町内会長だけでなく、まちづくりの団体や地域の住民との意見交換についても前々から課題にしている。今後の計画について、見通しを持っていただきたい。急速に計画をしていかないと、いろいろなものが飛び込みで入ってきてしまい、結果的に先送りになるのはまずいのでご配慮願いたい。

【小池係長】

増田委員から、市民団体や地域住民との意見交換会を実施するという話も前々からいただいております、事務局としても毎年2月か3月に来年度の地域活動支援事業の説明、事例発表という会があるので、その時にもっと大勢集まっていただいて、意見交換ができればいいと考えていた。本日、皆さんから意見をいただいて、時期は分からないが、今年度にということになれば、こちらで日程を調整するので前向きにご検討願いたい。

【中澤会長】

すでに9月29日の地域協議会開催の案内が届いていると思うが、市民いこいの家の件で再度説明があるので、その時には意見を出していただきたい。その後に地域活動支援事業の振り返りもできればと思う。

これから皆さんから課題を出していただく中で、時間が足りないようであれば、29日も引き続きやりたいと思っている。スケジュールで、10月、11月ぐらいで今年度の地域活動支援事業もある程度消化するところが出てくると思う。今までは実施していな

いが、できれば、事業の報告をいただきたいと思う。率直に言うと、直江津アートプロジェクト事業が、いきなり3月だと心配な向きがあるので、進捗状況をどこかで発表していただければと思う。事務局で11月或いは12月のどこかに発表の場を設けていただきたい。

【小池係長】

11月か12月に、地域活動支援事業の進み具合を確認したいということだと思うが、そこに提案団体の人は呼んだほうがよろしいか。

【中澤会長】

うちうちで結構である。スケジュールの中に付け加えるということをお願いしたい。スケジュールについて意見を求める。

【町屋委員】

令和3年3月までのスケジュールを見ると、次年度へ向けて地域の課題の中から優先的に審議するテーマを協議する。また地域活動支援事業の政策方針や審査方法について審議ということで、一応ここで、一つの結論が出る。

協議について、次年度へ向けて地域の課題の中から優先的に審議するテーマを3月までに決めたいということだと思うが、市民団体と話をするとと言ってもどんな団体を呼んだらいいのか等、いろいろな問題があると思う。それをどうやって仕分けするのかと思っていたが、先ほどのうちの地域活動支援事業に手を挙げてくださる団体の人たちと話をするのも一つの方法だなと思った。

町内会長との意見交換会も、ここにいらっしゃる半分ぐらいの人は、まだ経験していないので、実施することに異論を唱える気はないが、実際にあそこで話し合いをすることが大事なのか。町内会長と話し合いをすることよりも、町内会長の話を聞いた上で、ここに戻ってきて、ここで話し合いをすることがとても大事だと思う。そういう部分を大事にしていきたい。そして、スケジュールがタイトになるが、例えば、昨年度の主な審議テーマに出てくる少子高齢化、人口減少とか役員の担い手不足は、本当に町内会長から出てきたリアルな問題だと思う。ただ、そこで町内会長と話をして「そうなんですか」と言ってうけたまわることはいいが、こちらで何か言っても、それが何かになるわけではない。そこでの議論というのはあまり重要ではない。それはこちらに持ってきて、ここで、いろいろ問題があるが、それを全部棚の上に上げるのではなく、我々が取り組むテーマとして、何をやってもまちづくりのテーマとしてふさわしくないという

ことはないが、優先順位はどうなのか議論をしてほしい。そうでないとテーマが増えてくるだけなので優先順位をつけていく。そういう作業に時間を使って欲しい。それがここでの議論になるのではないか。

【中澤会長】

個人的には同感である。町内会長との話にしても、課題をともに共有するということと、その課題を揉んで優先順位をつけていくという作業をしなくてはいけないと思っている。

2番目の、このような形で進めていきたいという案だがよろしいか。団体との話も、できればやりたいということと、地域活動支援事業の中間報告もしていただきたいということも付け加えた。

視察研修の行き先は今年地域活動支援事業に該当するところを挙げてある。視察研修について、行き先、時期を含めて意見を求める。

【町屋委員】

五智公園や直江津屋台会館へ行くのであれば、車窓見学でもいいので、海岸通りを走っていただきたい。地域活動支援事業をというのであれば、毎年ずっと採択されている事業がその通りにあるので、そこをみんなで見ると、そのあと議論をしたい。あの事業に関しては、生で見て「これはいい。もうちょっとどうにかできる」と皆さんで話をする機会があれば、そこを通過した後に五智歴史の里会館にでも寄って、部屋を借りて、そこで新たに意見交換ができれば最高だが、そこまでは言わないが、ちゃんと皆さんと見たいと思う。

【中澤会長】

海岸通りを通るように予定している。

【小池係長】

順番はまだ決まっていないが、以前、会長から海岸通りもバスで回ったらどうかという提案もいただいているので、これは入れていきたいと思う。

【中澤会長】

その他、意見を求める。

日程については、相手との交渉もあるので、事務局にお願いしたい。

話が変わるが、直江津屋台会館の雨漏りの状況について、事務局に説明を求める。

【小池係長】

直江津屋台会館を担当している施設経営管理室に雨漏りの件を問い合わせた。雨漏り自体は10年ぐらい前からおきており、その都度修繕していた。昨年12月に屋台の方まで雨漏りしているのを職員が気付いた。現場を確認して該当する屋台の町内会長に連絡をして、4台の屋台にブルーシートをかけたということである。今すぐにでも、雨漏りの修繕をしたいところだが、雨漏りの原因について大規模に調査しないと修繕できないということで、今すぐには直せないということである。

担当課としては、来年度の予算要求をしていきたいという回答を得たので、会長にその旨を連絡させていただいた。

【中澤会長】

話を伺い、町内会長協議会で動いた。その動きについて、町内会長協議会会長でもある久保田委員に説明を求める。

【久保田委員】

雨漏りがしていることについては、地区連合青年会の人が7月当初くらいに屋台の整備をするために直江津屋台会館に行ったところ、ブルーシートが4台の屋台にかかっていたという連絡を町内会長にいただいた。早速私たちも、直江津屋台会館の中に入り確認したが、中が暗いのでどこから雨漏りしているかを確認することはできなかった。バケツがいくつか並べてあった。それから、4台の屋台にブルーシートがかかっているという状態である。屋台そのものの被害状況は、実際そこから屋台を動かして見ていないので、どれだけ被害があったかは、青年会の人も把握できていないようである。

明日、町内会長協議会で、市に「直江津屋台会館で雨漏りしているので、早く修理して欲しい」と写真を添えて陳情に行く予定にしている。

【中澤会長】

私も直接聞いたが「すぐにでも直してもらいたい」という青年会の意向だが、そういうわけにもいかないとしても、雨漏りがかなりひどいということなので、視察先に入れてあり、皆さんからもぜひ見ていただければと思っている。

他に視察先や日程について意見を求める。

【田村委員】

別の話だが、直江津学びの交流館の駐車場不足の件で、地域協議会でも30台分でもいいのか、もっと多くしたらどうかと相当議論になった。あれから全然利用状況の報告がないので教えてほしい。以前は、直江津学びの交流館の館長がここへ来て、いろいろ説

明していたが、最近はいらっしゃらないので、どういう利用状況になっていて、直江津学びの交流館自体の駐車場と、うみらいずの立体駐車場はどのくらい利用されているのか、お聞きしたい。

【中澤会長】

うみらいずは、すでに開館して駐車できるのか。

【小池係長】

うみらいず立体駐車場は、手続きをすれば2時間無料で利用できると聞いている。田村委員の質問があったが、こちらでどのような利用状況か把握していないので、調べて委員の皆様にご報告できるようにさせていただく。

【中澤会長】

その他にないか。

【丸山委員】

次回の地域協議会の議題を見ると、公の施設の再配置計画の策定についてという議題がある。これは、市のサウンディング市場調査と関係しないのか。市のほうで、サウンディング市場調査を始めていて、その中で直江津区とすれば、直江津屋台会館、三の輪台いこいの広場が調査の対象になっている。この地域協議会としても、1度見に行ってもどんな有効活用策があるかを検討されたらどうか。

【中澤会長】

では、三の輪台いこいの広場を視察場所に加えることとする。

【町屋委員】

確か前々回の会議で三の輪台いこいの広場について地域協議会に報告があった。やはりあそこの使い方と言ったときには、例えばバーベキューガーデンやキャンプ場はどうか。それを運営に長けた企業にお任せできたら素敵だと思う。特に新潟県内でも有名なキャンプメーカーがあったりする。直江津にキャンプ場を運営している会社があるという話もさせていただいた。ぜひとも、一緒に現地を見に行ってもここにできたらと思ってもらえたらそれはそれで素敵だと思う。

【中澤会長】

それでは、もうよろしいか。

次に日程だが、これは事務局にお任せすることによろしいか。無印良品で皆で食事したらどうかという話も出ているが、混んでいるので、この人数では難しいのではない

か。

【林委員】

食堂はお待たせしてしまうと思う。

【中澤会長】

オープンスペースではどうか。

【林委員】

食べることはできるが、おそらく10月の下旬だと、展示会をやっていると思うので、使用ができない状況かと思われる。

【中澤会長】

では、それらも含めて事務局に日程等の取りまとめをお願いしたい。

次に、町内会長との話し合いで、先ほども町屋委員から意見が出たが、まずは問題を共有するととらえていただきたい。

前回の反省からいくと、町内会長が全員話すとそれだけで時間がいっぱいになるので、それを踏まえて、どういうやり方をすればいいか、意見をいただきたい。

【古澤委員】

どういうテーマでやるのか、どういう形で進んでいくのか。どういう結論を導いていくのかと、いろいろ考えた場合、今、町内会長が22名のうち、今回9名が新人である。現在会議が開かれていない状況で、町内会長としても非常に困っている人もいるし、情報交換の場も少ないので、なかなか大変なのかというのが懸念する項目である。

そこで、テーマを絞って、事前に町内会長に「このテーマでやるので意見をまとめておいてください」と話を出しておけば、スムーズにいくと思う。そのテーマについても、いろいろな問題があると思っている。

まず少子高齢化、役員のみ手がない等々。人口が非常に高齢化している。うちの町内でも、今回75歳以上の方は人口300人のうち81名という状況である。それが65歳以上になると半分もいるという状況の中で、まちの活性化というものが、非常に難しいと思っている。ただその中で、船見公園夕日コンサートのカラオケ大会を見ていると、非常にまとまりのよい町内もある。やはりその辺の話を聞きながらやっていけばいいのかと思っている。

11月ごろということになれば、久保田会長から、テーマを絞っていただいて「このテーマについて語るから、こういう意見で話をしてください」といったものを持ってい

ったほうがいいと思っている。項目が多くなってしまうと、絵に書いた餅になって話がまとまらない状況が多々あるので、その辺をご検討願えればと思う。

【中澤会長】

これについては、前回、何かテーマを絞るとなかなか意見交換をする時間がないということで抱えている問題を出してもらおうというところから出発した。だから、結論を出すという話し合いではなく、お互いにどういう悩みを抱えているか。どういう困難を抱えているかを出していただくというところからスタートしたのだが、どんなものか。テーマを決めるとなかなか難しいのではないか。

【古澤委員】

会議の場で意見を出してくれと言われてもなかなか出てこないと思う。いろいろな意見が出てくると思うので、だいたい悩みは一緒だと思う。町内会長同士同じようなことを悩んでいる。今、なかなか情報交換の場がない。だからそういった部分で、町内会長協議会で情報交換の場を設けていけたらと思っている。まだ、完全ではないので、それは町内会長協議会もやはり一つのテーマから話をするということである。

【町屋委員】

会長がおっしゃったように、確かにテーマを絞ったら逆に話が着地点を見据えた話になるので、そうではなくて、問題点の抽出が目的だと思っている。前はそれでよかったのかもしれない。ただ、前回は踏まえると、反省点もいっぱいある。今回もまた同じことやって、それもこの3月までのタイトなスケジュールで11月とか12月にやっても、またそこで結論が出なくて、次に申し送りになるのであれば、今おっしゃったように、テーマをというのも両方とも大事な考え方である。

ただ、それであれば、すごく面倒だと思うが、事前にアンケート取っていただいて、例えば、そこから出てきたものから、こちらでピックアップさせてもらって、そこからテーマを決めるのはありだと思う。それであれば両方に反しない。

ただ、アンケートを取るとなるとアンケートのとり方であったり、项目的なアンケートなのか、何でもいいから記入を求めると、書きづらいアンケートだと言われたりすると思う。それはさっきの進め方の両極端と同じようなことになると思うが、もう一步踏み込んだところからスタートできれば、また中身的にはもう一步踏み込んだところまで到達できるのではないかと思うので、是非とも皆さんの意見をお聞かせ願いたい。

【中澤会長】

ほかに、意見を求める。

【水澤委員】

いろいろ問題があるが、10年20年と同じことが続いて苦慮してどうしたらいいのかわからない問題が多い。一概にこうだということも、今、町内会長が集まって意見交換をするというのも、去年もやったがあんまり目新しいものが出てこない。

もう一つは、何を先にどのように選択して、早くやっていくかの考え方も必要だと思う。

【中澤会長】

ほかにいかがか。

全体会は、最初と最後に少し時間をとる位だと思う。そこで意見を交わし合うのではなく、最初にやり方を説明して、最後にどんな意見が出たかの報告までいけたらいいと思う。そこでの意見は、今、抱えている問題は何か。コロナの状況で町内会活動もできないし、なかなか難しいと思うが、個人的に考えていることでもいいから出してもらい、「もう少し話してみましようか」といった形で会議が持てればいいのかと思っている。そうではなくて、何かテーマをあらかじめ言った方がいいか。

【増田委員】

会長が言われるように、コミュニケーションがものすごく大切である。これは、テーマを決めるために町内会長と意見交換するのではなく、町内会長が何を考えているのか、町内会の問題、町に対する課題、地域協議会に対する期待もある。その辺をしっかりと聞いて「一緒にまちづくりについて考えていく」というスタンスにしないと「このテーマを一緒に考えてくれ」というのは、ちょっと荷が重すぎると思う。その中から共通する課題が出てきたら、それをみんなで考えるという進め方が1番いいのではないか。

それから、大勢の人から気軽に意見を聞き出すには、やはりグループ懇談がいいと思う。

【田村委員】

以前、町内会長との話し合いを行ったときに感じたことは、確かに課題はいっぱいあって結構意見が出た。町内会長も我々もそれに対して、こういう考えもあるというような答えを出したときもあった。問題を共有して、我々も行政に両方から話したほうがいいのではないかという話も出た。そのように課題が共有できれば、我々も答えるし、町内会長からも言う。そういう関係が1番と思ったので、一概にテーマを決めなくても、

活発な議論になると思う。

【古澤委員】

いろいろな考え方、課題等がある。その中で、大体同じものを抱えていると思っている。だから、事前に町内会長協議会でも、皆さんどういふことがありますかと振っておけば、そのテーマに沿ってやればいふわけで、話がいろいろな方向にいつてしまうこともないと思う。もし、いつてしまった場合は、收拾がつかない部分等もあるので、テーマが3つあったら、3つの中で「どういふ解決策がありますか。その意見どうですか」と聞いたほうが、会議の整合性があると思っている。ただ町内会の人はいみんな同じことを悩んでいる、その辺を2点なり3点、事前に町内会長協議会でもしよいこんでやるほうがいふと思う。

【中澤会長】

近々、町内会長会議を持つことはあるか。

【久保田委員】

今のところ予定はないが会議を開くことは可能なので、役員会に諮っていきたいと思う。

【中澤会長】

結論を出すというものではない。直江津区地域協議会と町内会長協議会で話し合いをすることがまず第1である。もし、その町内会長協議会で、集まって話をすることがあったら、こんなようなことを取り上げてもらいたいと話をしておいていただければありがたい。

それから、発言が多いほうがありがたい。だから、前はフリーに発言してもらった。ほとんど主役は町内会長で、こちらは聞くという形だった。今回もそのような形をイメージしている。後でその問題をこちらで整理して、どういふふうに話を進めていくかは、こちらでやることである。

【古澤委員】

それであれば、よいと思う。

【町屋委員】

今のお話で、もともと問題の抽出をしたいというこちら側のニーズがある。問題を出してその解決のための議論なのかいふと、そこでの解決をあまり求めていない部分もある。我々は町内会長とざっくばらんな関係を築きたいといふのであれば、意見交換の先

はまだ道が遠くなるような気はする。ただ、ここのスケジュールを示されると、どうしても早まわしにしなければいけないのかと勝手に余計な気を使ってしまうのだが、そこはどうか。その辺を皆さんはどう思っているのかお聞きしたい。

【増田委員】

自主的審議というのは、テーマ決めて何かやろうというのではなくて、「地域の課題をみんなで話し合しましょう」或いは「地域の皆さんと、共通認識を持ちましょう」というのが目的で、何か結論を出して、市長に何か言わなければいけないのではない。会長の言うようにまず地域の人とコミュニケーションをとるために、直江津の人たちが何を考えているか、ざっくばらんに話し合う。そうすることによって地域協議会を認識してもらうことができる。基本的には、町内会で解決できない、個人で解決できないことが、その中から町の課題として話し合っ欲しいようなことが出てくれば非常にいいわけで、そのための地域協議会があると考えていただければ非常にいい。最初から会長が、コミュニケーションだと言っているのです、私達はそれをしっかりと受けとめたほうがいいと思う。

その観点からいうと、五智地区の町内会長がどういうことを考えているのかを肌で感じたいので、役員だけではなく町内会長の皆さんとひざを交えて話をしたい。この主旨をもう1度五智地区の町内会長に伝えていただきたい。

我々委員の中でも、何のために町内会長と意見交換するのかという意見があるが、何回も言っているように、地域のコミュニケーションを図るため、直江津としてどうかということである。皆さんから意見を聞くので、町内会長だけでなく、まちづくり団体の人もいろいろ思っている人は大勢いるので、その人達の意見も聞きましょう、住民の皆さんからの意見を聞きましょうと提案しているのでそのように理解をしていただければ大変ありがたい。

【中澤会長】

なかなか町内会長会議そのものが開けない状態であるが、町内会長が抱えている悩みは大体共通していると思う。隣の会長はどんなことやっているのかということが、わかる場でもあるぐらいの感覚で、とらえてもらえればいいかなというふうに思う。そうすると20人ここに増えると思うので、最低2会場で、例えば進行役を町内会長である久保田委員と古澤委員にお願いして、正副会長も、誰か1人ずつ入るというような形で、全体会をわずかな時間でやって、分かれて、それで最後にまた集まって「こういう話が

出た」までの話しかできないと思う。我々の方で、こういう話が出ましたとまとめるしかないと思う。

とにかく気楽に参加してもらおうということでお願いしたい。五智地区の町内会長協議会も、全体会のイメージで、相当3密を気にされている人なので、役員だけと思われているのかもしれない。もう1度事務局から「とにかく町内会長と話し合いをしたい」という旨を伝えていただきたい。それでも役員だけにしてくれと言われたら、それはそれでやむを得ない。また29日に、地域協議会があるので、もし新たな考えがあったら、そこでまた教えていただければと思う。日程はそこにあるように決まっている。

五智地区も町内会長が全員出席できたら2会場に分かれてということによろしいか。

(異議なし)

では、進め方については以上で終了する。

次に、委員の皆さんから、地域の課題をお互いに話し合っていきたい。

【田村委員】

安国寺通りの雁木の問題である。私は雁木の通路を平らにしてもらいたい。「歩くのにやさしいまちづくり」といってもあんなに段差がある。そもそも雁木は住民の土地である。そこをどうやって、公的な機関が補助して改良してやるのか。雁木はあくまで歩道である。「やさしいまちづくり」になっていないということを一言言いたい。

【林委員】

直江津地区に課題はいろいろあると思うが、今その課題の状況に対して、どういった状況になっているのか、おそらく住民の皆さんも私たちも把握できていないと思う。その課題が今どういった状況になっているのか。今一度整理して、この1年でどのように進んでいるのかを、きちんと可視化をするべきではないか。そうすることで、この地域協議会の中でも、町内会長とお話する時にしっかり頭の整理ができた状態でどういったところに注力していくべきなのかが整理ができるのではないか。

【古澤委員】

町の活性化である。直江津の駅から降りて、できれば、荒川橋までずっと雁木で濡れないようなまちづくり。直江津駅前から荒川橋ぐらゐまで雁木を造っていただければと思っている。

【増田委員】

直江津の中にある歴史的なものを大切にすることということで、福島城に関し、過去いろ

いろ取り組んできたが、やはりもう少し進展を図らなければいけないのではないかと
思っている。それから五智歴史の里会館をもう少し有効活用しないと、五智は歴史ある町
なので何とかしたいと考えている。

【町屋委員】

私は、やはり暮らしやすさ、住みやすさだと思う。こういう議論をするときに、観光
とか商店街の活性といった話が絶対出てくる。それと暮らしやすさは同じ土俵でなかな
か議論しづらい。私は商店をやっていて、もともとそっち側の人間である。観光にも携
わっている人間であるが、それはそれでそういうことを一生懸命やる人がいていい。た
だここはやはり、地域住民のために暮らしやすいまち。それもまた、まちのにぎわいの
創出の一つの支えだと思う。一生懸命人を呼んでくる。駐車場は、それはそれで大事な
ことだが、それが直結しない部分があると思うので、私たちが一生懸命生活の中で、例
えば子どもたちがこの街に定着してくれるだけでも人口が増えるという長いスパンで、
私たちがここで長く住んでいくために、長く続けられるまちの姿を考えていけたらいい
と思う。

【丸山委員】

直江津はやはり祇園祭のまちというのもあって、直江津連合青年会の執行部にもいた
が、その時からずっと何年祇園祭が続くのかという心配があった。年々高齢化が進むと
同時に、小・中学生が少なくなった。人口減少に対して、今後どういう対策、対応をこ
の町として取っていくのか。一つのキーワードとして空き地がここ数年増えてきている。
駐車場に変わったりしているが、本当は住宅整備が一番いいと思っている。空き地の有
効活用についていろいろと議論できればと思っている。

【水澤委員】

五智を育てる会の中心メンバーも高齢化しており数年後はどうなるのかという現状で
ある。あと、国分寺の茶屋や鏡池の状態についても改善できないかと思う。五智歴史の
里会館も、雰囲気が変わってきて市民が利用しているほうが多いような気がして、今、
観光の問題から少し離れている感じがする。

それと、加賀街道が国府小学校の通学路に当たるが、この辺の拡幅も私が町内会長の
ころ県に陳情に行ったが課題であると思っている。

【水島委員】

どのような問題を上げたらいいか非常に抽象的でシビアな問題で、一言でこういうこ

とを題材にしたいというのが非常に難しい。

ただ、先ほど増田委員がいわれた歴史的な背景で、直江津地区は相当古い。そういう歴史を今まで積み重ねてきてここまで来たわけだから、その中で町の活性化は当然のことである。それに、人口減少。ここに書いてあることがすべてではないか。先ほどから話を聞いていて、視点をどこに置いて、ディスカッションをするのかと思う。

ちょっと話はそれるが、私はこの場でもお互いに思っていることを話していくと、町屋委員が先ほどから何度となく皆さんに投げかけている「議論しましょう。ディスカッションをしましょう」という意見に大賛成である。だからこの場にいる。でも、なかなかそういう状況にならない。私がならないのか、この会自体がそういう状況でずっと進んできたのか、わからないが、私はまだ新入生で、今回8回目であり状況はよくわかっていないが、いつも疑問に思いながらこの協議会を終えて、あとにあるのは無だけである。自分は何のためにこの会に出たのか。しゃべらないで終わった。それでいいのかと常にそういうことを考えている。

【磯田委員】

今までずっと自主審議のことについて、前期の4年間、紆余曲折やってきているがなかなか進んでいかない。それぞれの委員がまちづくり構想というもののイメージが頭の中にあるがそれがなかなか共有できない。或いは、一緒に同じものを目的としてやるという形がつかれなかったということだと思う。ある意味で、すごくハードルが高い。みずからハードルを高くしてしまって、なかなか議論ができなかった。大げさに構えて何か構想という形で考えないほうがいいのかと思う。ただ、どういったことを検討してどのように積み重ね、どのように、市民とそれについて語るのか。或いは、それを語りながら、提案の形にまで持っていけるかの、大まかな目標とかロードマップだとか、さっきのスケジュールの話になるが、少し意識しておいたほうが良いと思っている。上越市にいろいろな政策があって、それについて、上越市第6次総合計画が一番頭にあって、そのあとにそれぞれの観光政策やいろいろな施策がある。それを直江津区でとらえた時に、どう考えるべきかを切り口にして、それぞれの課題について整理して、直江津区ではこのようにしたらどうかぐらいの提案、或いはそれを市民の人たちに提示して、地域活動支援事業でそのことについて、もっと深掘り、或いは実行してもらおう。一緒にやっていくという団体の一つを目安になればいいというイメージを持っている。例えば、直江津区の採択方針、採択方針の中の地域振興に資する事業やいろいろな切り口がある

が、その切り口で一つ一つ課題を見つけて、それについて議論していく。それについて地域協議会としていろいろな団体と話をしたり、市民の皆さんと意見交換したりしながらそれについて深掘りしていく。或いは、方向性について深掘りしていくというようなことをやって次年度の地域活動支援事業で、それを実行するような団体が出てくれば、それは我々の検討が無にならなくて、実行する人がいて、それがまた次に繋がっていくというような流れが作れば成功ではないかと思っている。

もう1点は、行政がいろいろ諮問事項や報告事項として来るものがあるが、我々がこの場で質問をしたり、こうして欲しいと言っても、なかなか解決できなくてアリのバイ的にここで話をされて終わりということがあって、非常に無力感を味わうわけだが、例えば、行政が整理した課題を地域協議会の中で揉んで、或いは住民の皆さんとその意見を抽出する役を地域協議会が担って、その課題についての提案を、行政にしていく、或いは一緒に動いていくというような動き方もあるのではないかと思っている。例えば、行政から令和2年の3月に都市再生整備計画の事後評価シートがあるが、例えばこの中で、今後の課題ということで、水族博物館からの誘客が足りないとある。町中に回ってくれる人たちが少ないということはどうしたらいいかとか、町中居住のことについて、今後検討していかないといけないみたいなことが書いてある。そういう課題について行政の持っている課題を我々住民が考えていきながら、そこに検討の過程の中で、少しコミットできるような形が、もしかしたら作れるのではないかという思いもあるので、その二つの考え方が、今私が思っているような、直江津まちづくり構想の中での検討の形ということで提案したい

【今川委員】

私が一番重要に考えているのは、通学路の安全対策である。私は直江津に引っ越してきてから7年経つが雁木通りの段差や、直江津駅前の通り、特に信号から安国寺通り西本町1丁目から3丁目の通り、中央1丁目の通りには雁木がない。西本町1丁目に入ってようやく雁木がずっとあるが3丁目に行くとまた雁木がない。まず、歩道らしい歩道がない。1丁目の雁木は歩道として使えるが、車椅子も通れないような雁木である。それから3丁目に行くと、やはり歩道らしい歩道がなくて、非常に危険である。3丁目の安国寺通りを直江津中等高等学校の生徒が通学するが、表通りを通らないでショッピングセンターのところの辻をずっと通って、直江津学びの交流館に出てくる生徒が多い。冬は大変である。表通りは雪があるので非常に危険で、町内会、行政ともいろいろ話し

合って、解決しなければいけないと思う。それから、空き地に関しては借地が多い。建て替えができない状態で、家はまず建たない。うちの組でも、空き地が多く、草だらけで本当にひどい。草刈りとかはほとんどしない。その辺も何とか解決できないかと思っている。

【河野委員】

丸山委員と全く一緒だが、神輿の会に入っているが、若い人のなり手がなくて、お年寄りばかりで神輿が上がらない。やはり、よそから若い人が入れるように、空き家の有効活用をして若い人をどんどん入れるようにできたらと思う。高知県の梶原町で空き家を改装して、若い人をどんどん入れているところがあるが、そういうことができたらと思っている。

【久保田委員】

今日の資料の概要のところにあるが、少し漠然としているが、地域に暮らす人々の生活面の充実を図っていきたいから、町内会長協議会等でも課題ということで少子高齢化や、役員の担い手不足というふうな課題が上がってきている。具体的に、こういう事態になっている状況の中で、安全安心、健康維持というものに関して、具体的な取り組みを考えていきたい。

【坂井委員】

五智地区の委員として災害時の避難経路の安全確保についてももう一度考えたい。以前避難経路を歩いたことがあるが、とても狭い道でブロック塀が続いているところを歩かなくてはいけない。それが通学路と一緒にいると思うが、避難所は国府小学校なので、とてもそこが避難経路と思えなかった。そこについてももう少し考えたいと思う。

【竹田委員】

昨年度の審議テーマを見せてもらったが、少子高齢化が進んでおり、民生委員を選ぶにしても人がいない。今、欠員の地域も結構あり、市でもいろいろと人口減少については対策をとられていると思うが、この会でも何か案があれば、話し合いをして、上に上げていきたいと思っている。

【田中実委員】

まず一つ空き家対策だが、実際に春日区では、確か上田だと思ったが、地域の女性たちが月曜から土曜日まで、6、7人がそろって、毎日違うメニューでこども食堂を行っている。小さい子がいれば、こども食堂の片隅で子供の面倒をみたりしながら、実際事

業をやっているところも見てきた。

あと雁木通りの段差問題についても、元の春日山駅前通りをまっすぐ行くと春日山に登るが、そこもやはり直江津と同じで雁木はあるが、段差が余りにもひどくて駄目だということで、春日商工振興会でいろいろ協議して、大分いいところまで行ったが最終的には頓挫した。それは雁木を造るにしても、やはり雁木自体が建物になるということで、消防法に触れたりする。そこができないのであれば、上越市役所のジャンクションからコンビニエンスストアがあるところまで、今のところまだあまり建物がないから、謙信公祭をやっても雨風をしのげる場所ということで、雁木ができるのではないか。商店主に対する補助金事業があるので、それを活用して、田村委員が言われたように直江津の商店連合会みたいところで話されたほうが、よりスムーズに行くと思う。

【田村委員】

私が言っているのは安国寺通りで、商店も含めて、一般の個人の家が西本町は圧倒的に多い。

【田中実委員】

我々もそれをやったが雁木自体が、家を支えているような状況なので、なかなかスムーズにいかなかった。

【田中美佳副会長】

皆さんからご意見をいただくと、そういうことなのだということがたくさん出て、私は2期目だが、毎回皆さんのご意見を聞いているので、自分でも何をしていいのかが、本当にわかりづらくなっている。自分としては、前は皆さんで話し合うことが大事、意見を出すことが大事とお聞きして、そういうものだと思ったが、少し長くやっていると、何かしら一つでも、こういうことやったというものが出てきたらいいと思っている。ただ、人数がいればただけ問題が山盛りにあって、どれも大事なので、解決するための話がなかなか難しいのかと思っている。だからといって、「どうすればいいのか」と言われると難しいことだが、特に私は若い人たちが、頑張ってくれるような町になってくれればいいと思っている。

【青山副会長】

コロナ渦で我々が気づいたことは、世の中は常ではない。常に変わるものだということを思い知らされた。今回町内会長と問題を共有しながら、議論を進めることが非常に大事なことだと思っている。話の入口として、公の施設の再配置計画が行政から提案さ

れているので、その辺を、共有のお話の入口として進めていきながら、問題を個々に出してもらおう。そういうことを、直江津地区でもやりたいと思っている。

【中澤会長】

先日テレビで、「12人のやさしい日本人」というドラマをやっていたが、1人みんなが早く帰りたいのに「頑張るとにかく話し合いをしましょう。話し合いをしましょう」と言って、ドラマがずっと繋がっていくのだが、話し合いは大事だと思う。ただ、10年この方ずっとやってきている。しかし、結論がなかなか出ない。結局は、じゃあ誰がどういう形でやろうかというところへ行く。そうすると、少し後ろに下がってしまうところがあってむなしさはあるが、これからも話し合いを続けていきたいと思うし、次回もまた、こういうテーマで話を出していただければと思っている。

では、「その他」について事務局へ説明を求める。

【小池係長】

次回地域協議会：9月29日（火）午後6時30分～

議題は、【報告事項】「公の施設の再配置計画の策定について」で、前回の会議と同じテーマだが、内容的には、市民いこいの家について再度説明をさせていただきたい。また資料は、でき次第郵送させていただく。

それから、本日の直江津まちづくり構想についての継続した話し合いを予定している。

【中澤会長】

皆さんからどうしても話したいことがありましたら、どうぞ。

【町屋委員】

明日、市の方へ陳情に行かれるという話だったが、是非ともお願いをしたいことがある。直江津屋台会館が今どういう根拠で屋台を置いているのかわからない。できたのが28年ぐらい前である。あの頃は、市からのお願いで展示をしてくれということで、お金まで出て、お願いをされてあそこに入れていた経緯がある。今は、もうそういう時代ではないし、そもそも直江津屋台会館もやっていないから、なぜ今あそこに置いているのか分かりかねる。あまり大きなことは言えないが、そもそも、雨漏りをしているところに、屋台を置いているのは誰のニーズなのか。雨漏りも、もしここで雨漏りができて、雨漏りしているから傘を貸してくれるならいいが、カッパを着せられて、ぽつぽつと雨が当たっている所で会議をやれと言われたら、多分ちょっと嫌だと思う。今どこの町内かわからないが、僕らの共通の財産である屋台を置いているわけで、そんな状態で

そのままにされていたかと思うと、これを直しますから代金を払ってくれと言われたらとんでもないことになると思う。預かっている以上は、今更施設にお金かけるっていうのも大変だと思うが、ブルーシートではなく違う方法で、せめて移動して、雨が当たらないようにするぐらいは最低限にしてもらわなければ、直江津の人から誰も認めてもらえなくなるということだけはきっちりと伝えていただきたい。

【中澤会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。